

第3版はしがき

「主権者としての『知力』を養い、政治を見る目を鍛えることがますます必要になっています。政治と政治家を見極め、誤りのない道を選択し、日本の政治を前に進めるために、これからもこの本が役に立つことを願っています。」

こう書いて本書の第2版を刊行してから4年の月日が経ちました。本書の初版は2010年に出されていますから、それから数えれば10年が経過したことになります。幸いにして、本書は版を重ね、このたび第3版を出すことになりました。これもひとえに本書を活用していただいた皆さんのおかげです。この場を借りてお礼申し上げます。

第3版では、全体にわたって可能な限り新しいデータに入れ替えました。また、新たに第16章として「第2次安倍政権以降の政治と政党」を設け、第2版以降の政治過程と政党動向について補充しました。これによって、戦前から今日にいたるまで、日本の政治と政党について概観できるようにしてあります。

本書の第3版を準備している過程で、大きな出来事が相次ぎました。世界と日本で新型コロナウイルスの感染が急拡大し、世界は未曾有の危機に見舞われました。アメリカではトランプ前大統領がバイデン大統領に交代し、日本でも安倍晋三前首相から菅義偉首相へと政権が変わっています。

野党の側にも大きな動きがありました。立憲民主党と国民民主党が解党して新しい立憲民主党が誕生したのです。新自由主義に反対し、共産党との連携も視野に入れた大きな「受け皿」の誕生です。

新たに発足した菅政権は日本学術会議の会員任命拒否事件を引き起こし、新型コロナウイルスの感染拡大による第3波に見舞われるなど、波乱含みの出発となりました。安倍前首相による「桜を見る会」前夜祭の費用補填や元農相への現金提供疑惑なども明るみに出ています。

2021年夏に延期されたオリンピック・パラリンピックが予定通り開催できるのか、秋までには任期が切れる衆院議員の改選がいつになるのか、コロナ禍を収束させて経済の回復を図ることができるのか、菅新政権の前途には多くの難題が横たわっています。いずれにしても、政治の本分は国民の生命と生活を守ることであり、いかなる政権であってもこの本分を全うするために全力を尽くしていただきたいものです。

本書の初版の「はしがき」に、私は次のように書きました。

「生活が守られてこそその社会です、健康であってこそその人生です。人々の生命と生活を支えることこそ政治の要諦である——このことを再確認しなければならない時代が、この日本にもやってきたのではないのでしょうか。」

このことが本格的に問われ、希望の持てる「新しい政治」が求められているように思われます。主権者としての「知力」を養い、政治を見る目を鍛えて、新しい時代の扉を開くために、本書がいささかでも役立つことを願っています。

2020年12月3日

五十嵐 仁

はしがき

人びとの生活のあり方は、いつの時代にも大きな問題だったはずですが。しかし、「豊かさ」は達成されたと、誤解された一時期がありました。「バブル経済」によって物があふれ、生活を支えることは、もはや政治の課題とはされませんでした。

ところが、時移り時代が変わり、「おにぎり食べたい」という言葉を残して餓死する人が現れたのです。何という社会になったのでしょうか。どうして、これほど大きく変わってしまったのでしょうか。

その最大の理由は、新自由主義によって、規制緩和、官から民へ、市場原理主義、自己責任論などの掛け声が強まり、効率とコスト削減を最優先する考え方がはびこってしまったからです。財界と政府は構造改革の旗を振って社会保障財政を削り、非正規労働を拡大して賃金を上げず、可処分所得の減少を招いて内需を停滞させました。

その結果、貧困と格差が拡大するという、以前には考えられなかったような劣悪社会へと変容してしまったのです。財界に支援された自民党は、大きな間違いを犯しました。その責任を取らされたのが、2009年の政権交代です。

人々の願いは、当たり前にも働いて普通の生活が送れ、健康に毎日を過ごすことです。これを実現することこそ、新政権が担うべき課題でした。しかし、その方向はあやふやで一貫していません。自民党に愛想を尽かした民意は、民主党にもきちんと受け止められなかったようです。

それでは、どの政党がこの願いを受け止められるのでしょうか。今ほど、それを見極める力が求められているときはありません。

生活が守られてこそその社会です。健康であってこそその人生です。人びとの^{いのち}と^{くらし}を生活を支えることこそ政治の要諦である——このことを再確認しなければならぬ時代が、この日本にもやってきたのではないのでしょうか。

この本は、「日本の政治」についての入門書です。この一冊で、政治とは何か、日本の政治はどのように変化してきたのか、政治の仕組みはどうなっているのかなどについて、基本的な知識が得られるようにしてあります。難しく言えば、政治思想と政治理論、近現代日本政治史、政治制度・機構論、行政学と地方自治、国際政治について一冊にまとめたものが、この本だということになります。

私は2004年に、『現代日本政治——「知力革命」の時代』という本（本書の図表の出典表記では、『現代日本政治』と略）を、八朔社から刊行しています。本書の叙述には、一部、この本と重なる部分があることをお断りしておきます。また、図表の一部も、この本から再利用させていただきました。

日本の政治は、2009年の政権交代によって、これまで経験したことのないような新しい時代に入りました。しかし、政権交代の期待を裏切った民主党は12年暮れの総選挙で惨敗し、再び自民党中心の政権が復活することになりました。このような時代であればこそ、政党と政治家を見極め、選択する国民の力量が試されることになるでしょう。

主権者としての「知力」を蓄えることが必要です。政治を学び、政治を見る目を鍛えることが、これまで以上に大切になってきました。皆さんの「知力」を高め、日本の政治を前進させていくために、この本が役に立つことを願っています。主権者が賢くなればなるほど、よりよい政治を実現できるにちがいないのですから。

2013年3月23日

五十嵐 仁